

新市 トピックス

紙面に生きるあなたの情報!
耳寄りな情報! 待っています

発行所 読売 YC 新市
新市町新市 429-7
発行者 山本 恒夫
TEL51-4453
FAX51-8377
メールアドレス
yomiuri@pear.ccjnet.ne.jp

光明寺(常) 大屋根修理中 一般公開、期間中説明会も



は、一級建築事務所(有)徳岡工務店(徳岡秋雄代表取締役、本社・三次市)が請負い、6月から本堂の大屋根

新市町常(菅浦) 銅栄山光明寺(千葉善英住職)で本堂の大屋根修理が行われている。工事の過程で本堂建立時代の建築様式などが見つかり、1日

6日(出まで)一般公開(いずれも9時~11時)が行われている。公開期間中の本日2日(火)と4日(木)に元・福山市しんいち歴史民俗博物館館長の山名洋通さんによる説明会がある。(二日とも9時~11時・参加無料)。

根、鐘楼門を中心とした改修工事が始まり平成30年春、完成予定。大屋根の瓦の解体作業中に梁の箇所には虹梁彫刻が施してあるのを見つけ、古い形の真宗の本堂ではないだろうか、広島大学大学院文学研究科

文化財学・三浦正幸教授と元・福山市しんいち歴史民俗博物館館長の山名洋通さんに調査を依頼。調査を進めていく中で、今まで知られていなかった、320年前の茅葺屋根だった頃の虹梁や、本堂の内陣や外陣、余間などの配置、来迎柱、面取り施した角柱などの造りや日輪光背と舟形光背の二つの光背を持つ珍しい御本尊など。いくつかの珍しい点が見つかった。光明寺の縁起は今から576年前の中世・室町

時代の1440年(永享12年)祐智法師により開基。408年前(江戸時代はじめ)の1608年(慶長13年)第4世・祐善法師が光明寺に伝わる阿弥陀如来像を本願寺に申請、承認されたと『本願寺資料集成』木仏之留御影様之留』に記述。同年に阿弥陀如来を安置する『梵閣』と現在の『鐘楼門』を建立。今から320年前の1696年(元禄9年)第8世・教峯法師により本堂が建立、現在に至る。



見つけた虹梁



二つの光背をもつご本尊

近世の蓮はもう少し花弁が開いているが、この蓮花座は蕾が少し開いた状態で、中世・室町末期の特徴。」と山名さんは説明。本堂について、一級建築士の徳岡秋雄社長は「本堂入口は『唐戸』。柱は全て『角柱』で古く珍しい。角柱の面取りが時代が下ると細くなり、1

cmと1.2cmと広く取っているのは古めかしく興味深い。ご本尊がおられる『内陣』と左右の『余間』の間に建具が入っていた後や『外陣』に『矢来柱』が4本も立っていて、男席・女席を分ける席割りのなごりや内陣のご本尊両脇に立つ、丸柱の『来向柱』の上部は唐様式の賑やかな透かし彫りが施してあり、福山の明王院を参考に作られている。」大山根は「かつて茅葺屋根だった頃の『虹梁』も見つかり、現在の棟木の下にひと回り小さい棟木が並んでいるのが分かり、威厳を示す為に屋根を高く、大きくした痕跡かと思われれます。」三浦先生によると、鐘楼門の彫刻も素晴らしく、『鯉』『鶴』『亀』の三仙人が揃って施されているの珍しいと、おっしゃっていました。」と語る。

徳岡社長は「この本堂は、こじんまりとしているものの、古式縁ある所が残っており、備後地域でも浄土真宗の本堂としてかなり古いものです。」と話した。問合せは、光明寺TEL51-8072へ。